

令和2年3月4日

日用品の安全性に関する意識調査 －価格と安全性に対する考え方について－

普段、雑貨や、子供用の玩具などの日用品を、価格を重視して購入される方も多いのではないのでしょうか。消費者庁には、日用品に関する様々な事故情報が寄せられており、これまでにカプセル入りスポンジ玩具及びタトゥーシールの注意喚起を行いました。これらは主にいわゆる100円ショップ等（以下「100円ショップ」という。）で日用品として販売されているものであることから、今回、同様の店舗で販売されている製品についての事故情報と、意識調査の結果から、価格と安全性に対する考え方を明らかにしました。

今般、消費者庁において実施した「日用品の安全性に関する意識調査」によると、男性では約4割、女性では約3割の方が、特に安全性までは考慮することなく日用品を購入していることが分かりました。さらに、高価格なものとは比べて安価な日用品を購入する場合は、安全性に対する意識が低くなりがちで、「警告」、「注意」、「対象年齢」などの表示を確認することなく、衝動的に購入してしまう傾向があることが分かりました。

また、消費者庁には、平成27年1月～令和元年12月末の5年間に100円ショップで購入した日用品に関する事故の情報が339件寄せられていることから、身近な日用品による事故を防ぐため、以下の点について、注意しておくことが大切です。

<日用品を購入する際のアドバイス>

- (1) 安価な日用品であっても、安全性を考慮して購入するようにしましょう
- (2) 「警告」、「注意」、「対象年齢」などの表示を確認しましょう
- (3) 日用品のリコール情報に注意しておきましょう

1. 事故情報

「学校で筆箱の蓋を開けようとしたところ、左手指を負傷した。」¹や、「玩具（スポンジ玩具）が幼児の体内に入った状態になり、不正出血等の重傷」、「タトゥーシールを左頬等に使用したところ、左頬が炎症等の重傷」といった、100円ショップ

¹ 平成30年8月16日に国民生活センターから注意喚起。「鋭利な縁で指先を切った筆箱－すぐに使用を中止し、危険な縁部に絶対に触れないでください－」http://www.kokusen.go.jp/news/data/n-20180816_1.html

で購入した玩具や文房具等の日用品による重大事故等が、消費者安全法第12条第1項の規定に基づき通知されています。

また、安価ではありませんが、球体の磁石の玩具を誤飲する事故は「幼児が球体の磁石の玩具を複数個誤飲し、開腹手術により摘出」²等として、何度も通知されているところです。そして、事故情報データバンク³には、100円ショップで購入した日用品に関する事故情報が平成27年1月から令和元年12月末までの5年間で339件寄せられており、その他の事故を除くと、火災事故等が最も多く59件、異物の混入・侵入の事故が33件発生しています（図1）。

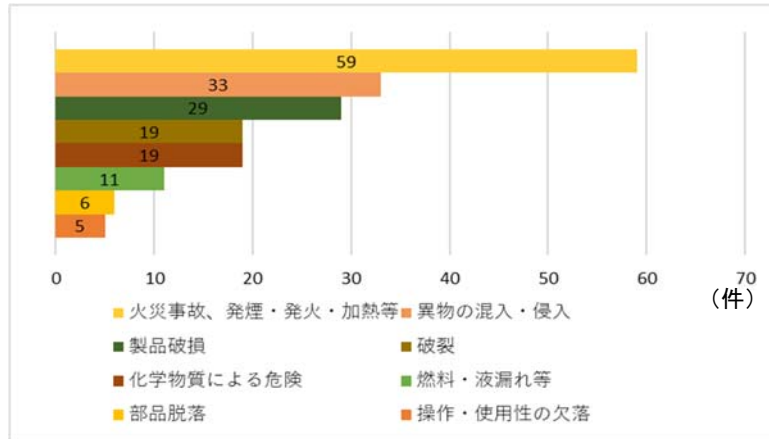


図1 100円ショップで購入した日用品の事故内容（その他の事故を除く。）

傷病内容が明らかになっている215件のうち、刺傷・切傷が52件（24%）で最も多く、次いで皮膚障害が36件（17%）、熱傷が31件（14%）でした。その他の傷病及び諸症状は筋等の損傷・脱臼・捻挫が含まれ、59件（27%）でした。

傷病の程度は1か月以上が7件（3%）、3週間～1か月が6件（3%）、1～2週間で16件（7%）、1週間未満が24件（11%）、医者にかからずが118件（55%）、不明が44件（20%）でした（図2）。

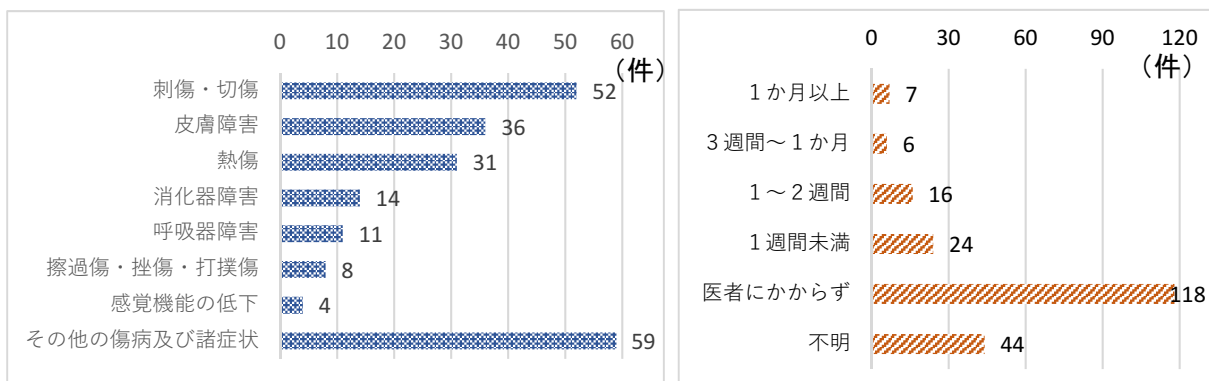


図2 傷病内容及び程度

² 平成30年4月19日に国民生活センターから注意喚起。「強力な磁石のマグネットボールで誤飲事故が発生—幼児の消化管に穴があき、開腹手術により摘出—」
http://www.kokusen.go.jp/news/data/n-20180419_1.html

³ 「事故情報データバンク」は、関係機関から「事故情報」、「危険情報」を広く収集し、事故防止に役立てるために、消費者庁が独立行政法人国民生活センターと提携して運用しているデータ収集・提供システム（平成22年4月運用開始）です。事実関係及び因果関係が確認されていない事例も含まれます。

被害を受けた方の年齢を見ると、40歳代が最も多く、次いで50歳代の事故が多くなっています（図3）。

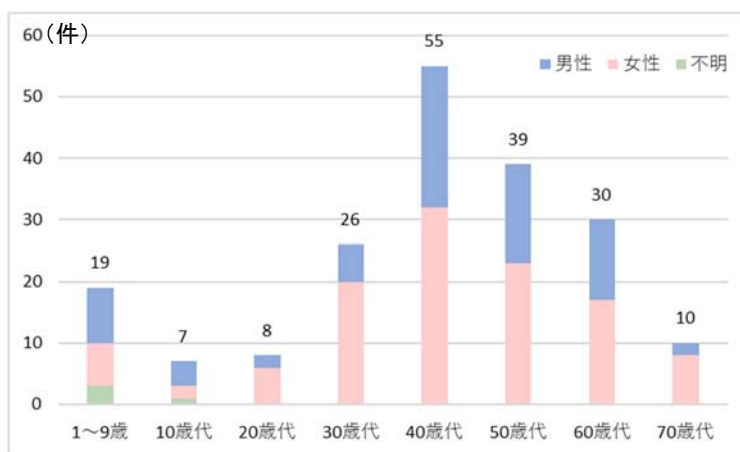


図3 被害者の年齢別事故件数

また、日用品の分類別では、電気小物が73件で最も多く事故が発生していました。電池の液漏れや、スマートフォンの充電コードの不具合による発火が多く見られます。衛生美容用品では、化粧品、特にマニキュアでの事故が多く見られ、71件でした。雑貨類はライターや工作用品等を含み、64件でした。次いで食器類30件、食品28件、掃除洗濯用品22件でした。玩具類は16件で、子供が誤って小さな部品を飲み込む等の事故が多く発生しており、より注意が必要です（図4）。

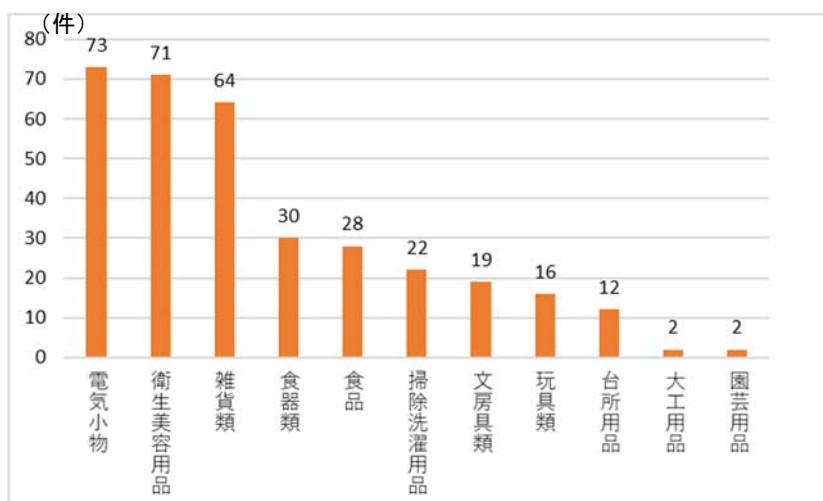


図4 日用品の分類別事故件数

2. 事故事例

【事例1】

100円ショップでUSBケーブルを購入。スマートフォンをパソコンに接続した瞬間にパソコン端子から火花が散って焦げたような臭いがした。驚いて抜き、火事になってはいけないと思い指先で抑えたので、指先に軽いやけど（ヒリヒリする程度）を負った。スマートフォン、パソコン共に電源が入らなくなった。

(事故発生年月：令和元年10月)

【事例2】

昨年100円ショップで購入した白熱電球を、居間の照明に使っていた。普通に電気をつけてテレビを見ていたところ、バーンと音がして電球が破裂した。テレビをつけていたので真っ暗にはならなかったが、慌てて別の電気をつけてみたら電球の破片が手に刺さっていた。

(事故発生年月：平成29年12月)

【事例3】

100円ショップで購入したアイシャドウを使用したところ、眼球の白い部分が赤くなり、痛くて涙が止まらず、目を開けられなくなった。翌日、医者に行き、治療を受け、目薬が処方された。6日後、目が見えにくくなったので医者に見力検査をしてもらったところ、正常時0.4だったのが両目とも0.1だった。その2日後、夜の運転時に見え方が乱反射のようになったので医者へ行くと、目に傷があるからだろうと言われた。

(事故発生年月：平成29年12月)

【事例4】

100円ショップでラッパ型のシャボン玉ができるおもちゃを購入し、子供が遊んでいたところ、吸い口が取れて、吸い込んでしまったらしい。背中をたたいてやっと3センチくらい出てきたので喉から出した。医者にはかからなかったが大変危険なので情報提供したい。

(事故発生年月：令和元年6月)

【事例5】

仏壇に供える線香にターボライターで火をつけ、サイドボードに置いた後仏壇から離れた。ターボライターから火が出て、近くにあったプラスチックのクリアファイルが燃え、サイドボードのガラスにも亀裂が入った。慌てて落とし、足で踏んで消したので、じゅうたんに黒いコゲ跡がつき、サイドボードの上面も黒く焦げていた。

(事故発生年月：平成31年4月)

3. 日用品の安全性に関する意識調査

消費者が日用品を購入する際に、安全性等に関してどのようなことに意識して購入しているのかについてアンケート調査を行いました。

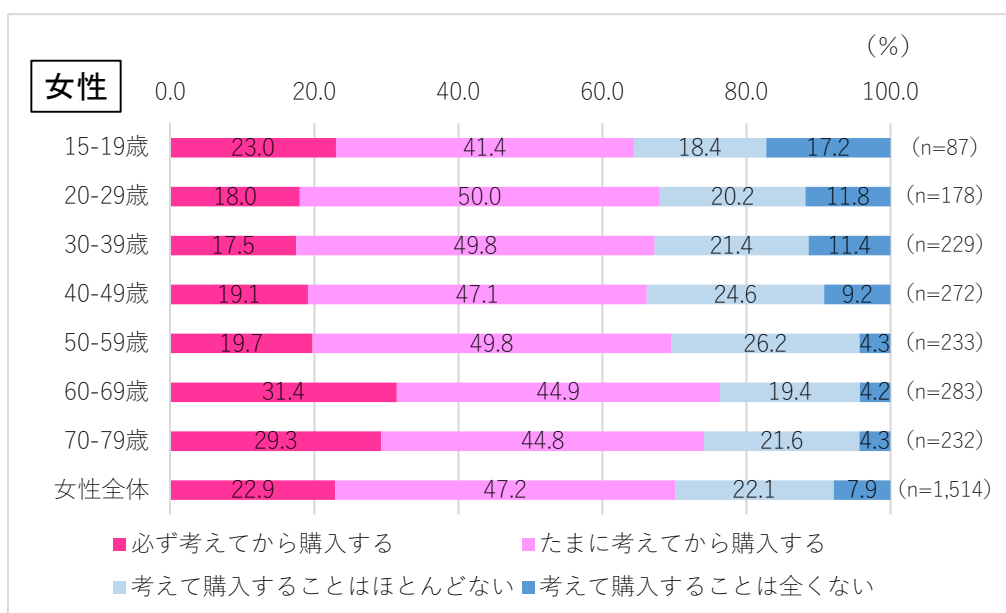
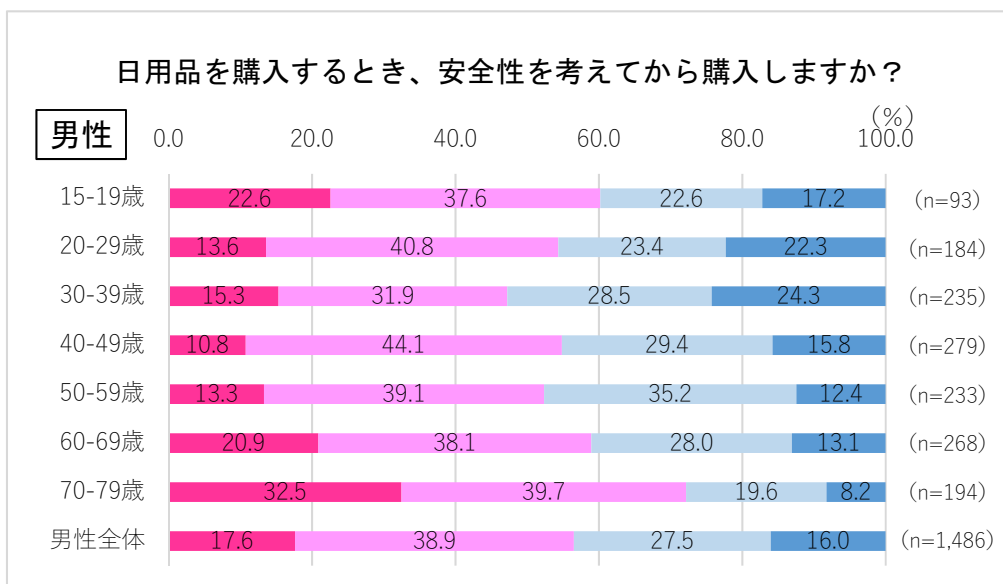
調査方法：インターネット調査

実施期間：令和元年9月11日（水）～9月13日（金）

調査対象：有効回答者数 3,000 人

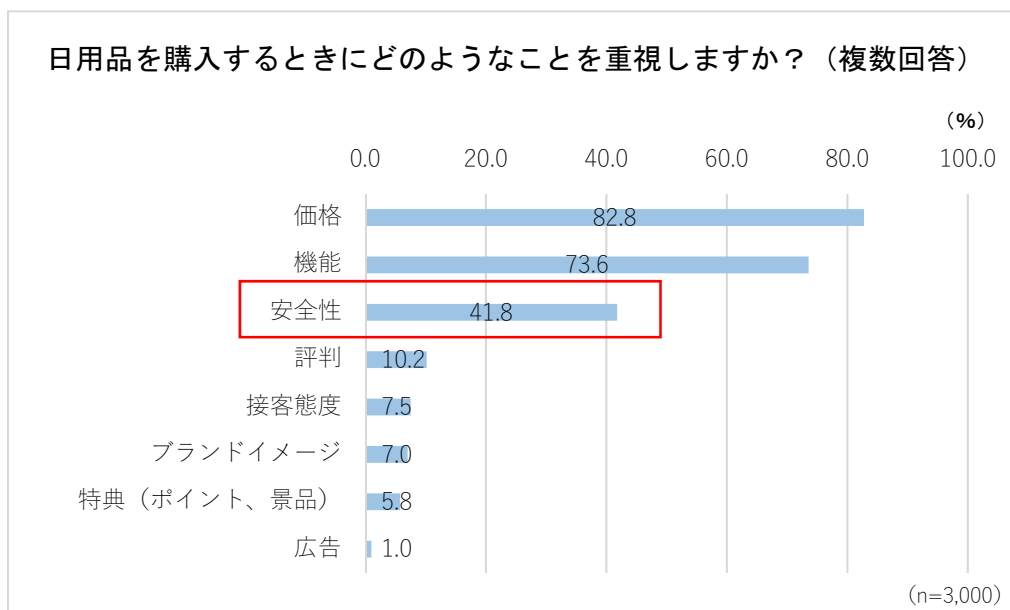
全国の消費者（15歳以上79歳以下）を対象に、性別及び年齢（7区分）を人口構成比に割り付けて抽出した。

（1）購入時の安全性への意識



「日用品を購入するとき、安全性を考えてから購入しますか?」という問いに、「考えて購入することはほとんどない」とした回答と「考えて購入することは全くない」とした回答を合わせると男性全体では43.5%であるのに対し、女性全体では30.0%であり、男性の方が安全性に対する意識が低い傾向が見られました。

年代別の傾向を見ると、男性の40~49歳では「必ず考えてから購入する」が10.8%と最も低く、男性全体の傾向としても、15~19歳の若い世代や60歳以上の高齢世代と比べて、30~59歳の中間世代の安全性に対する意識が低い傾向が見られました。

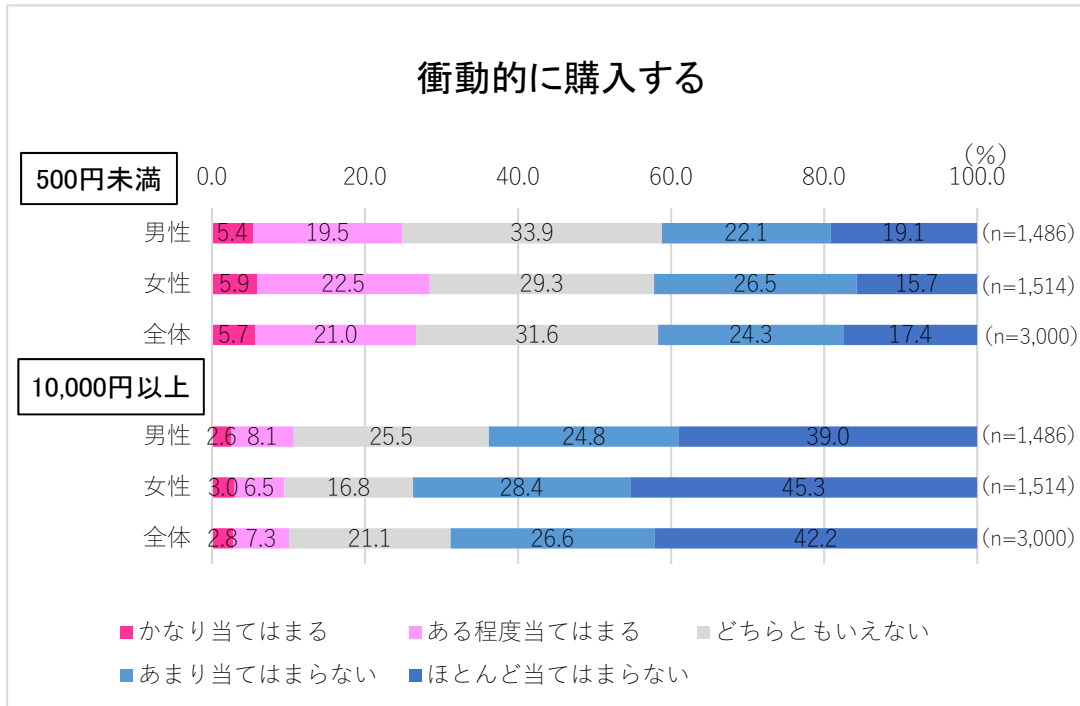


日用品を購入する際に重視するものとしては、主に「価格」と「機能」の2つが挙げられ、次いで3番目に「安全性」が挙げられました。

(2) 価格による意識の違い

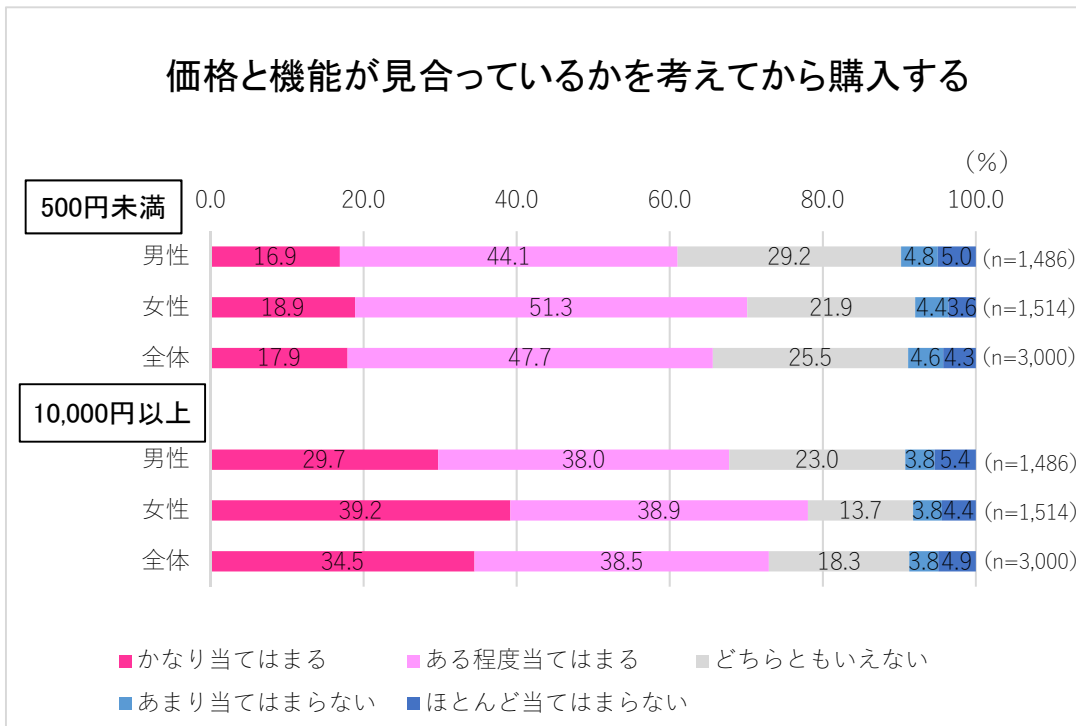
日用品を購入する際に、価格の違いによって安全性等に対する意識にどのような違いが出るのかを調べるために、「500円未満」と「10,000円以上」の日用品を購入するときの意識の違いについてお聞きしました。

① 衝動性



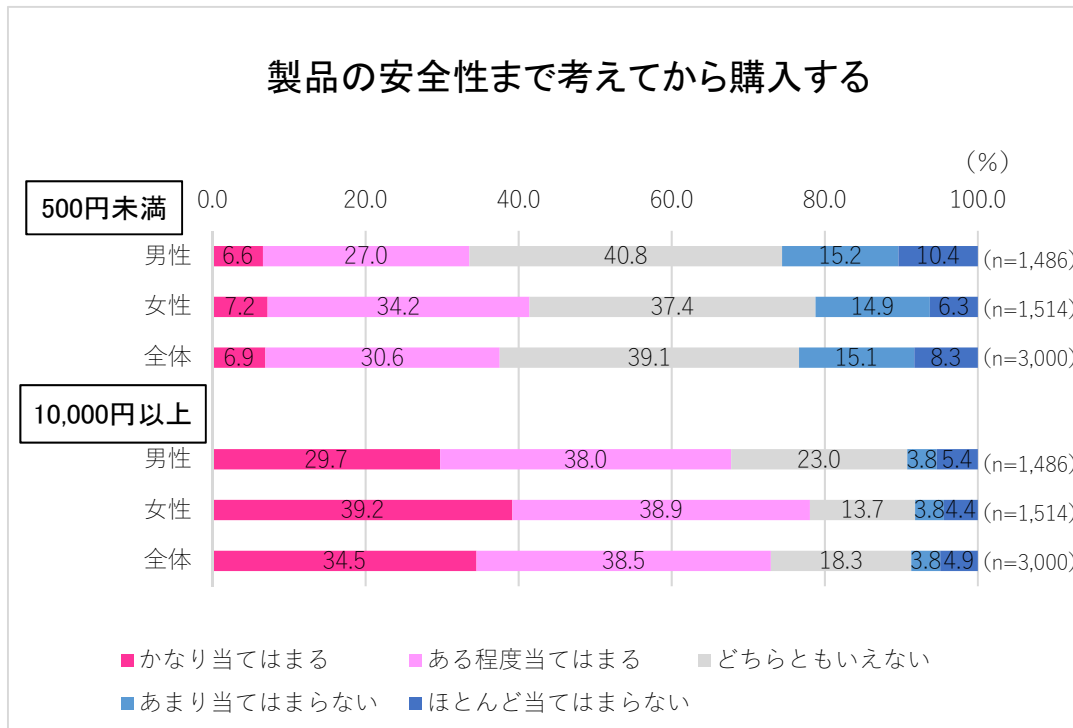
500円未満では「衝動的に購入する」に「かなり当てはまる」とした回答と「ある程度当てはまる」とした回答を合わせると26.7%であり、10,000円以上の10.1%よりも高く、安価な日用品は衝動的に購入しやすい傾向が見られました。

② 価格と機能の考慮



「価格と機能が見合っているかを考えてから購入する」に「かなり当てはまる」と回答した割合は、500円未満の方が10,000円以上と比較して低くなる傾向が見られましたが、「かなり当てはまる」とした回答と「ある程度当てはまる」とした回答を合わせると、500円未満と10,000円以上の間には7.4ポイントの差が見られました。

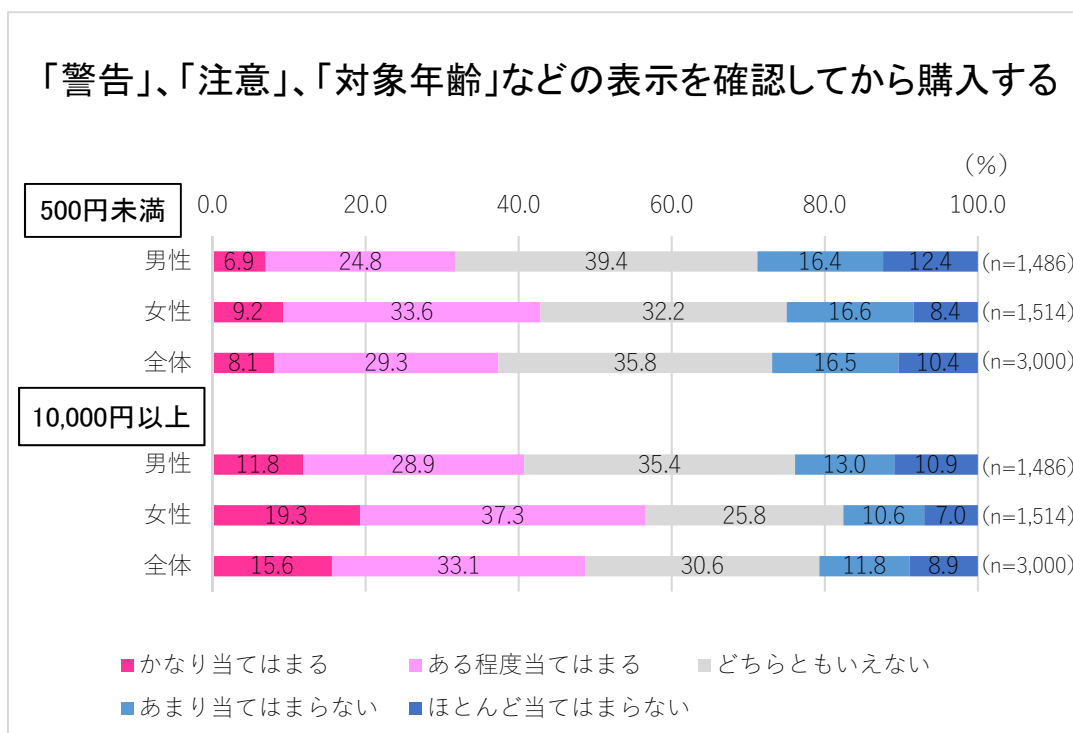
③ 安全性の考慮



10,000円以上では「製品の安全性まで考えてから購入する」に「かなり当てはまる」とした回答と「ある程度当てはまる」とした回答を合わせると73.0%であるのに対し、500円未満では37.5%と半分程度となり、安価な日用品を購入する際は、安全性に対する意識が大きく低下することが分かりました。

また、②の「価格と機能の考慮」と比較しても、②では7.4ポイント差であったところ、③では35.5ポイントの差が見られ、低下の幅が大きく、③の「安全性の考慮」は、価格によって大きく影響を受けることが分かりました。

④ 表示の確認



500円未満では「『警告』、『注意』、『対象年齢』などの表示を確認してから購入する」に「かなり当てはまる」とした回答と「ある程度当てはまる」とした回答を合わせると37.4%であり、10,000円以上の48.7%よりも低く、安価な日用品は表示を確認しないで購入する傾向が見られました。

特に男性は、女性と比較すると、表示を確認しないで購入する傾向が見られました。

4. 日用品を購入する際のアドバイス

(1) 安価な日用品であっても、安全性を考慮して購入するようにしましょう

日用品は同じような製品でも、100円程度のものから数万円程度のものまで幅広い価格帯で販売されています。価格が安いものほど安全性を考慮せずに、つい衝動的に購入してしまいがちになります。日用品を購入する際は、価格にかかわらず安価なものであっても安全性も考慮に入れて購入するようにしましょう。

日用品は家庭内において、自分以外の家族が使用する場合も多いので、特に小さいお子さんのいる家庭では、誤飲や誤使用による事故のリスクも考慮して購入するようにしましょう。例えば、玩具の場合には、玩具安全マーク（STマーク）制度があります。玩具業界が策定した玩具安全基準（ST基準）適合検査に合



格した玩具には、S Tマークを付けることができますので、選ぶ際の参考にしましょう。

(2) 「警告」、「注意」、「対象年齢」などの表示を確認しましょう

安価な日用品であっても使用方法を誤ると大きな事故につながる場合があります。安価なものほど、「警告」、「注意」、「対象年齢」などの表示を確認せずに購入してしまう傾向があります。価格にかかわらず、必ず「警告」、「注意」、「対象年齢」などの表示（図5）を確認してから購入するようにしましょう。

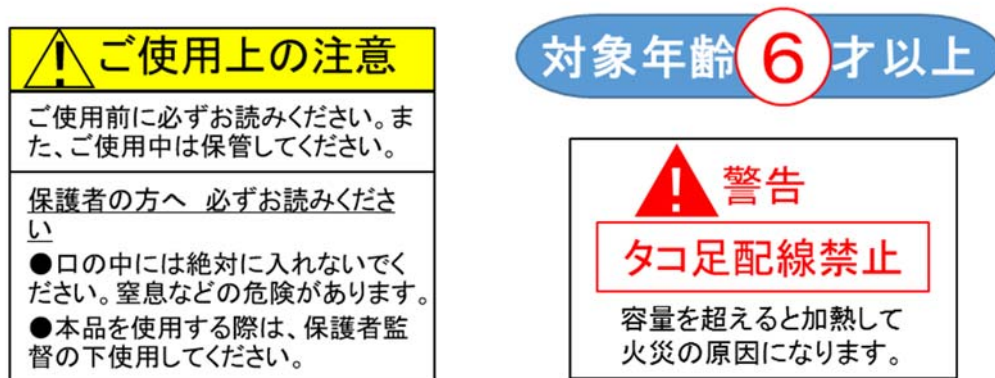


図5 注意表示の例

(3) 日用品のリコール情報に注意しておきましょう

安価な日用品であっても、リコール対象製品になっている場合があります。下記のリコール情報サイトなどを利用して、購入した日用品がリコール対象となっていないかに注意しておきましょう。

<リコール情報サイトの掲載事例>

- 店舗で販売いたしましたリピン(30本)一部商品にて、怪我をする恐れがございますので、直ちに使用を中止くださいますようお願い申し上げます。
- 延長コード及び周辺を焼損する火災が発生し、1名が軽傷を負いました。販売事業者は、当該製品を含む対象機種について、製造上の不具合により、使用中に電源コードが破損し、短絡、出火に至るおそれがあることから、事故の再発防止を図るため、2015年（平成27年）9月24日、ウェブサイトへの情報掲載を行うとともに、新聞社告、各店舗での店頭告知を行い、対象製品について製品回収及び返金を実施しています。

・消費者庁 リコール情報サイト

<https://www.recall.go.jp/>

消費者が保有する製品に関して、製品に関する何らかの欠陥、不具合又は品質上の理由等により、事業者が行っている回収や無償修理、注意喚起などの情報を提供しています。

<万が一、日用品が原因で事故が起きた場合には>

日用品が原因でけがをした等の事故が起きた場合や、事業者からの説明に納得できない場合等には、最寄りの消費生活センターに相談してみましょう。

・消費者ホットライン：「188（いやや）」

お住まいの地域の市区町村や都道府県の消費生活センター等を御案内する全国共通の3桁の電話番号です。



<本件に関する問合せ先>

消費者庁消費者安全課

TEL : 03 (3507) 9137 (直通)

FAX : 03 (3507) 9290

URL : <https://www.caa.go.jp/>